
殺し屋

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺し屋

【Nコード】

N8109N

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

「それもそうですね」

S夫人は頷いた。

「それもそうですね」

S夫人は頷いた。

「もちろん報酬は旦那さまに掛けられた生命保険を下りてからで大丈夫です」

S夫人はほっと胸をなでおろす。

確かに成功しなければ、お金など一銭も出したくはない。

「では、駄目でした。けれど、諸経費は頂きますと言うのもありませんわよね？」

「ええ、もちろんですとも。こういうものはやはり信頼関係あつてのものですから」

「そうですか。それを聞いて安心しました。正直夫とは早く別れたかったので、渡りに船とはこの事ですね。彼も早くして欲しいと言つてましたから」

「彼とは？」

つい口が滑つたとは思つたが、別に目の前の人間には隠す事でもないとS夫人は話を続ける。

「つい最近知り合つた彼氏なんです。歳は彼の方がだいぶ若いですが、気がすごくあつて。実は彼が私がまだ子供を産めるうちに結婚したいだなんてわがまま言いだすものですから。確かに今の歳で子を産むのは大変ですけど、もっと高齢の方で出産されたって話も聞きますし、あながち無理な話でも無かつたりするんです」

「若いツバメとは。いやはや奥様もお若い」

S夫人は少し顔を赤らめ、「いやですわ」と話をそらそうとする。

「それにしても驚きました。まさか生命保険の外交員の副職が殺し屋だなんて」

「いえいえ、世の中不景気ですから。こんな事は良くあるのです」「そうなのですか？」

「ええ、そうなのです」

S夫人と保険の外交員は声をそろえて笑った。

数日後、S夫人の夫がS夫人の前に書類をばさりと落とした。

「お前の行動が不審だったので、少し調べさせてもらった」

そう言って夫は書類の中から埋もれていた機械を取り出し、ボタンを押す。

『それもそうですね』

レコーダーからはいつぞやの会話が流れてきた。

「望み通りお前とは別れてやる。だが、もちろん慰謝料など無しだ」
言い捨て夫はその場を後にする。

そして、残されたS夫人はさめざめと泣くのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8109n/>

殺し屋

2010年10月10日15時24分発行